

ネパールへ

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

多くの神々が住むネパール、秋はダサイン、ティハールの季節、数ある祭りの中でダサインは国を挙げて祝う最大の祭りだ。祭りには必ずそれに伴う物語がある。神話の世界は私たちをもう一つの世界に連れて行ってくれる。

ダサインは2週間、ティハールでは5日間を祝う。学校や職場も休みになる。先日、ネパールの兄から「ダサインおめでとう！」と電話があった。家族の心はいつも一緒にあると知ることは嬉しい。

この時季の日本からの旅行はネパールの文化習慣を知り、多くのネパール人と触れ合う機会ともなるのでお勧めである。神話の世界の入口に立てるかもしれない。そこで旅行者として注意すべき点の一部を簡単に挙げたいと思う。

まず最初は大切な挨拶、一つの挨拶はその日を快適なものにしてくれる。ネパールの挨拶は、胸の前で右手と左手を合わせ、合掌するように「ナマステ」と言う。日本の「おはようございます、こんにちは、こんばんは、さようなら」の全てに当たる便利な言葉である。その意味は、「私の心の神があなたの心の神へ敬礼します」となる。

次に入国する際の注意事項、外国人はビザが必要で、事前に大使館でビザを取るか、到着後の空港でビザを申請する。空港の場合は、パスポートサイズの写真1枚（空港でも撮影可能）と滞在日数により最低でも25ドル必要。パスポートの有効期限が6ヶ月以上あることも必須。空港内で必要な分だけ両替をし、携帯用のSIMカードを買っておくと便利だ。

滞在中の注意事項として幾つか挙げる。○計画停電があるので予定通りにならないことも多く、余裕のある日程、または無理をしない滞在にしたい。懐中電灯は便利グッズとなる。

○ネパールの電圧は220Vなので、電気製品と一緒にアダプターを持参する必要

がある。

○ネパールは土曜日が日本での日曜休みになる。

○文化遺産になっている寺院や古都を観光する際、外国人は入場料がかかる。しかしヒンズー教寺院は信者以外入れない所も多い。

○ネパールでは頭に触れたり、人に足裏を向けるのは失礼なことなので、間違ってしまったら謝った方がベスト。人を跨いだり、間違っただけで人に足先で触れてしまうのも御法度。

○ネパールでの「いいえ」のしぐさは日本と同じ首を横に振るが、「はい」の場合は前を向いたまま首を横に傾ける。これが自然にできるようになったら、あなたはもうネパール人だ。

○ネパールは硬水で、慣れてない人や衛生面で心配な人はミネラルウォーターを買った方がいい。

○ホテル以外のトイレの多くはしゃがんで用を足す。紙を使わず水で洗い、自動水洗ではないのでバケツや柄杓を使い自分で水を流す。ティッシュペーパーを常備していると便利。（トイレでは溶けるトイレットペーパーを使う方がいい。）

○ネパール人家庭では、玄関または部屋に入る時は靴を脱ぐ。寺院や仏舎利塔への入場も必ず靴を脱ぐ。寺院は時計回りに参拝する。

○今までの習慣として食事の際、右手を使い、個人個人に出されたものを食べる。同じ皿から自分たちで取り分けたりはしない。食事前後は手と口を洗う。ホテルやカトマンズのレストランではこの限りではないが、知っておく必要はある。

○タクシーはメーターを使わず走り出すことがあるので値段の交渉が必要。空港からカトマンズ市内までは約1,000ルピーかかる。夜10時以降は普通運賃の1.5~2倍となる。買物でも値段交渉が必要。

まだまだあるが今回はここまでとする。